

令和５年度 第３回東郷町地域ケア推進会議：議事録

日 時	令和５年 10 月 19 日（木）14 時 00 分～15 時 15 分
場 所	東郷町民会館 2 階 大会議室
出席者	委員（敬称略、順不同） 制野 司 有識者（学校法人柳城学院） 松尾 健生 歯科医師（愛豊歯科医師会東郷支部） 佐藤 裕美 薬剤師（東郷町薬剤師会） 福島 美佐子 訪問看護師（東郷町訪問看護ステーション連絡協議会） 柳 ゆかり 理学療法士（東郷町リハビリテーション連絡協議会） 磯村 達己 東郷町社会福祉協議会 逸見 紀子 東郷町北部地域包括支援センター 村井 良則 有識者（東名古屋医師会医療介護総合研究センターやまびこ） 池田 寛 有識者（豊明東郷医療介護サポートセンターかけはし） 半田 清春 東郷町民生委員児童委員協議会 松枝 博之 施設サービス関係（愛厚ホーム東郷苑） 朝倉 隆行 居宅サービス関係（メドック東郷） 松山 陽二 居宅介護支援事業所（もみの木） 神脇 和美 住民代表（第 1 号被保険者） 原口 浩美 瀬戸保健所 健康支援課 森本 美香 健康福祉部 健康保険課
欠席者	松浦 誠司 医師（東名古屋東郷町医師会） 野々山 次夫 東郷町民生委員児童委員協議会 荒川 和枝 東郷町南部地域包括支援センター東郷苑 海老原 由美 住民代表（第 2 号被保険者）
傍聴者	なし
事務局	健康福祉部長 高齢者支援課長（進行） 高齢者支援課職員 4 名 策定支援委託業者 1 名
議 題	1 あいさつ 2 報告事項 令和５年度事業進捗状況について 【資料 1】 3 議題 第 9 期東郷町高齢者福祉計画素案について 【資料 2】 4 その他
配布資料	会議次第 <u>資料 1</u> 令和５年度事業進捗状況

	資料2 第9期東郷町高齢者福祉計画素案
	資料2 補足資料 取組項目一覧と重点施策

1 あいさつ

2 報告

(1) 令和5年度事業進捗状況について【資料1】

事務局	(資料説明) 資料1
委員長	ただいまの事業進捗状況の報告について、ご意見・ご質問等はないか。
委員	進捗状況の中で、一般介護予防事業（2）自立支援応援事業について、わかれば教えていただきたい。本日厚労省の、在宅医療介護連携についての都道府県市町村担当者研修会議が開催されており、この会議直前までオンラインで傍聴していたが、その中で平成2年度の医療介護連携推進事業の評価のところで、口腔ケアとリハビリテーションと栄養ケアを自立支援の強化として一体的に推進するという計画を策定することになっているという説明があった。もう一つ、日進市の地域ケア推進会議では、その会議の座長から最後に、やまびこで栄養ケアステーションを運営している管理栄養士がいる、同じように口腔ケアとリハビリテーションと栄養ケアの計画を作ることになっているが、やまびこでは作っているのか、と尋ねられたことがあった。市の方で作るものなのではと思ったが、事業として必要性は分かるし、やまびこで事業をすれば企画することになると思うが、東郷町の方で自立支援応援事業というのは、計画の中の一環の事業となっているのだろうか。全く無関係だろうか。
事務局	今ご指摘の計画についてはまだ状況が把握できていないのでまた確認したいが、東郷町のこの事業をはじめた経緯については多職種カンファレンスや地域ケア会議を通して、地域課題としてリハビリ職の活用や低栄養の対策が課題として上がっており、その対策としてリハビリ連絡協議会と東郷町在宅栄養士会と相談をしながらこの事業を立ち上げたものである。直接計画を作るという話が国からあったから、それを受けて作ったという事業ではなく、町の実状を踏まえて立ち上げたものである。
委員	よく分かった。町の独自事業という位置づけで良いか。
事務局	今のところ独自事業として進めているが、制度などを見ながら結び付けられるところがあれば検討する必要があると思う。
委員長	他にご質問等はないだろうか。報告であるので特段質問ということではないが、認知症総合支援事業としていくつかご紹介いただいたが、その中で、LINE配信で参加を募っていて若い人の参加につながったという話があったが、相応の手ごたえを感じているということでもいいか。今後のことも含めて。
事務局	昨年度まではLINE配信はしておらず、広報と、作成したチラシを窓口や介護予防教室等の出向いた先などで周知する方法を取っていたが、広報を見る人も

	一部に限られるところがあり、自分たちが出向くところは知っている人ばかりということが多かった。新しい参加者を募るためにLINE配信をしたが、事業によって対象者に違いがあり、数字としては持っていないが、LINE配信をした割に申し込みは増えなかったかもしれない。ただ、これまでの周知啓発では届かなかった人に届いたのかなと思う。例えば、認知症サポーター養成講座についても、これまでは介護予防教室の参加者で興味を持った高齢の方が多かったが、今回は40歳代、50歳代の申し込みがあったり、報告したフレンドリー講座についても昨年度は申し込みが振るわなかったが、今年度は定員一杯まで申し込みを受け付けることができたりしたので、一定の成果は見られたと考えている。
委員長	生活支援体制整備事業では、南部では世代交流という話があるということだったので、その解決策としてもきっかけになればと思う。続いて議題に移りたい。第9期東郷町高齢者福祉計画素案について説明をお願いします。

3 議題

(1) 第9期東郷町高齢者福祉計画素案について

事務局	(資料説明) 資料2
委員長	詳細にご説明いただいた。これから委員の皆様にはそれぞれの立場から率直にご意見いただければと思う。第3章までは前回の会議でいただいた部分が素案になっている。本日中心に検討するのは第4章となる。合わせて重点施策の項目についてもご意見があればお願いします。
委員	2点ある。33ページの令和4年度の表で、令和4年度の実績と令和8年度の実績となっているが、令和4年度が実施で令和8年度が継続となっているものがあり、以前から実施している事業もかなりあると思う。そうなるとそこは実施ではなく継続で良いのではないかと思われる。令和4年度から初めて開始したものでなければ継続で良いのではないか。もう1点、45ページの高齢者等にやさしいお店登録制度について、令和4年度から事業実施ということだった。これは前回の計画には記載されておらず、せっかく新しい事業なのにそれが見えてこないため、記載の仕方を工夫してはどうかと思う。
事務局	33ページの令和4年度の実績の記載について、既に実施している事業については継続としてもよいのではというご指摘については、今後検討したい。また、45ページの高齢者等にやさしいお店登録制度など新しく計画に登場した事業についてのご意見については、第8期計画の途中から始まった事業だったため、新規と表現していなかったが、同様に途中から始まった事業を新規と記載していたものもあり、表現の統一と併せて、新規とするか別の表現とするかを検討させていただければと思う。
委員長	11月の会議でまたお示しいただければと思う。
委員	全体の書きぶりの確認だが、目標指標について、直近の実績と令和8年度の目標という形で整理されている。例えば9期の前の8期では、9期になるまでの間

	にどんな状況の変化があったか、評価する視点では、それ以前の数字があると、8年度の目標については今後記載されると思うが、時系列で評価をしながら令和8年度に向けてイメージができるのではないかと思った。可能であれば前の期の数値を入れてもいいのではないか。また実施・継続という表現がいくつかあるが、評価をするにあたってある程度数字で評価をした方が、具体的に良い・悪いも含めて評価できると思う。単純に継続していればよいというものも、残念な実施になっているかもしれないので、具体的な数字で見える部分について検討していただければと思う。
事務局	目標指標の表記について、第8期の計画の数値の記載についてのご意見については、一度検討して表現を考えたいと思う。実施と継続の目標について、数値があった方がよいのではというご意見をいただいた。実施・継続という表現にした経緯としては、増えたから良い、悪いと言いづらい指標もあり、継続と表現したが、目標指標の示し方についてもう一度検討したい。
委員長	こちらも11月に向けてご検討いただきたい。できる限り数値化できるものはそうしていただくほうがよいと思う。
委員	16ページの実績の所と、令和5年度の目標について、前年の実績より落ちるというものがあり、何か所かあるので教えていただきたいと思う。また、27ページで基本的な考え方として基本理念を示されている。ここでは「とうごう」とひらがなになっているが、アルファベットになったりひらがなになったりしており、統一感がない。いろんな表現があるがどれかに統一した方がよいのではないかと思った。
事務局	1つ目のご指摘で、16ページの実績と目標値の記載について、実績値の方が目標より大きくなっている項目があるということだった。前回会議でもご説明したが、実績値が令和3年度時点で目標を上回っている指標があったが、そこで目標値を見直しということはないので、目標値より実績が大きくなっているものがある。また、目標値は計画策定段階の指標であり、中間評価での見直し等はしていないことから、目標は増加だったが実績は下がってしまったものなどがあった。 2つ目の「とうごう」という表現の統一について、事業の名称については、アルファベットで表記されているものは、その表記で事業を実施しており、修正が難しい。レガッタネットとうごうについても電子連絡帳の正式名称として運用されており、揃えることが難しい状況がある。基本理念については第8期の計画を引き継いでおり、このまま表記させていただいている。
委員長	なかなか表記を変えるのは難しいように思う。他にご意見はないか。
委員	やまびことしては在宅医療介護連携の推進、43ページに目が行くが、日進の場合では、やまびこが委託を受けていて、このような項目に色々な事業が上がっており、そのほとんどが委託事業であり、やまびこに対する成績表のようになっている。東郷町の場合は、例えば電子連絡帳について、指標としては利用者数と登録患者数が上がっているが、利用者数はおそらく事業所などの電子連絡帳に登録

	している人数だと思う。実態として登録数と、患者数もそうだが、実際に電子連絡帳を利活用しているかどうかは、ちょっとマッチしないというか、そこは連動していない実態はあると思う。そのところは東郷町もよくご存じだと思う。ではどういう目標にすればいいか、確かに利用者数や登録患者数が増えていけば利用されている感じになるが、実態としては、なかなかそうはなっていない。登録されて電子連絡帳に記事が投稿されて初めて利活用されるということになるが、記事数を増やすのがいいのかどうか、ちょっと分かりにくいかもしれないが、実態として評価するには合っているのではという気がした。日進市では、この計画を立てるに当たり、事前にケアマネ調査をされているが、その中で電子連絡帳を積極的に利用しているかどうか、という質問項目があり、その結果を目標値にしているところがある。日進市の場合前回は 50%を超えていたが、昨年度の調査では 30%を切った状況で、感染症の影響もあるだろうし、やまびことしても行政としても推進できていなかったのが反省点になっている。課題が浮き上がってきたところで電子連絡帳を活用するためのプロジェクトチームを作って、1 年前から活用策を検討して、というところで成果は上がっている。なので、どういう指標にするのかというところは、もう少し再考した方が良いのではないかと感じた。
事務局	目標指標が現実的ではない部分があるところのご指摘だったと思う。ご提案いただいた投稿記事数を指標としてはというご意見もいただいたが、一度検討をさせていただきたいと思う。また、ケアマネ調査の数値については、大変参考になるものである。今回は 9 期のアンケート調査は終了しているため、次回の調査項目に掲載することも含めて検討させていただきたいと思う。
委員長	特に質問ではないが、31 ページの生きがいくつと社会参加の促進の中で老人クラブ活動の充実という項目がある。活動の充実が目標であるが、最後のところで老人クラブへの加入促進とある。充実をすることで加入を促進するというつながりだろうか。あくまで目標は活動の充実ということで良いか。
事務局	こちらの事業内容の加入促進の意味だが、年々、東郷町に限らず全国的に老人クラブの会員数が減少している。少なくとも町としては、社会福祉協議会と連携して会員数を維持できるよう加入を促進していかなければいけないと考えている。その上で、老人クラブ活動を充実していく必要があると思っている。
委員長	78 歳の私の母親も加入を拒んでいる。なかなか運営も大変だと思うが活動の充実も重要なところだと思う。他に無ければ内容はこれで取りまとめていただくということになる。それではまずはこの内容で進めていきたいと思う。重点施策についてもまずはこの項目で良いだろうか。それではこちら事務局で最終のご検討をいただくことになる。文言修正や数字のことのご指摘等は、11 月の次回の会議で確認をいただくということで、概ねこの内容で進めることになる。よろしく願います。次の 11 月の会議で 9 期計画案を再度ご提示いただくことになる。本日の議題はこれで終了となる。
事務局	本日いただいたご質問・ご意見を反映したものを次回 11 月の会議で計画案とし

	てお示ししたい。
--	----------

4 その他

事務局	続いて事務連絡である。次回の地域ケア推進会議は令和5年11月21日（火）午後2時から予定している。会場は役場2階の大会議室となる予定である。あらためて開催のご連絡をするので、ご出席をよろしくお願いします。以上をもって、令和5年度第3回東郷町地域ケア推進会議を終了する。
-----	---

以上